

飛驒市告示第198号

地方自治法第102条第2項の規定により、下記のとおり令和7年第3回飛驒市議会定例会を招集する。

令和7年6月3日

飛驒市長 都 竹 淳 也



記

- | | | |
|-------|--------------|----------|
| 1 日 時 | 令和7年6月10日(火) | 午前10時00分 |
| 2 場 所 | 飛驒市役所 議事堂 | |

令和7年第3回飛騨市議会定例会議事日程

令和7年6月10日 午前10時00分開議

日程番号	議案番号	事 件 名
第1		会議録署名議員の指名
第2		会期の決定
第3	報告 第1号	令和6年度飛騨市一般会計繰越明許費繰越計算書について
第4	報告 第2号	令和6年度飛騨市水道事業会計予算繰越計算書について
第5	報告 第3号	飛騨市土地開発公社の経営状況報告について
第6	報告 第4号	損害賠償の額の決定について
第7	承認 第3号	専決処分の承認を求めることについて(飛騨市税条例の一部を改正する条例)
第8	議案 第88号	財産の取得について(除雪ドーザ)
第9	議案 第89号	財産の取得について(消防ポンプ自動車)
第10	議案 第90号	財産の取得について(スクールバス)
第11	議案 第56号	飛騨市固定資産評価員の選任につき同意を求めることについて
第12	議案 第57号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第13	議案 第58号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第14	議案 第59号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第15	議案 第60号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

令和7年第3回飛騨市議会定例会議事日程

令和7年6月10日 午前10時00分開議

日程番号	議案番号	事 件 名
第16	議案 第61号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第17	議案 第62号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第18	議案 第63号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第19	議案 第64号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第20	議案 第65号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第21	議案 第66号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第22	議案 第67号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第23	議案 第68号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第24	議案 第69号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第25	議案 第70号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第26	議案 第71号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第27	議案 第72号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第28	議案 第73号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第29	議案 第74号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
第30	議案 第75号	飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

令和7年第3回飛騨市議会定例会議事日程

令和7年6月10日 午前10時00分開議

日程番号	議案番号	事 件 名
第31	議案 第76号	飛騨市税条例の一部を改正する条例について
第32	議案 第77号	飛騨市ライフライン保全対策事業分担金徴収条例の一部を改正する条例について
第33	議案 第78号	飛騨市行政区等設置条例の一部を改正する条例について
第34	議案 第79号	飛騨市過疎地域持続的発展計画の変更について
第35	議案 第80号	飛騨市指定金融機関の指定の変更について
第36	議案 第81号	財産の無償譲渡について(古川町谷消防器具庫5分団1部)
第37	議案 第82号	飛騨市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
第38	議案 第83号	飛騨市家畜診療所設置条例の一部を改正する条例について
第39	議案 第84号	飛騨市駐車場条例の一部を改正する条例について
第40	議案 第85号	損害賠償の額の決定について
第41	議案 第86号	令和7年度飛騨市一般会計補正予算(補正第1号)
第42	議案 第87号	令和7年度飛騨市水道事業会計補正予算(補正第1号)
第43	意見 第1号	刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書

○出席議員（13名）

1 番	佐 中	藤 田	克 利	成 昭
2 番	小 笠	原 上	美 保	子 廣
3 番	水 上	吹	雅 豊	孝 要
4 番	森 井	端	浩 史	二 朗
6 番	澤 住	田 川	清 文	美 博
7 番	前 野	村 山	勝 恵	憲 子
8 番	籠 高	原	美 邦	子
9 番				
10 番				
11 番				
12 番				
13 番				
14 番				

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

市長	都 藤	竹 井	淳 弘	也 史
副市長	下 岡	出 田	尚 浩	弘 和
教育長	森 野	田 村	雄 賢	一 郎
総務部長	畑 野	上 村	あ 久	一 さ
企画部長	横 谷	山 口	裕 正	づ 徳
市民福祉部長	大 渡	庭 邊	久 康	和 樹
商工観光部長	堀 佐	田 藤	丈 直	幸 智
農林部長	土		治	郎 樹
基盤整備部長				昭
環境水道部長				
教育委員会事務局長				
会計管理者				
消防長				
病院事務局長				
財政課長				

○職務のため出席した事務局員

議会事務局長	砂 川	田 端	健 太	郎 恵
書記			嘉	

（ 開会 午後10時00分 ）

◆開会

◎議長（澤史朗）

本日の出席議員は全員であります。

それではただいまから、令和7年第3回飛騨市議会定例会を開会いたします。直ちに本日の会議を開きます。本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◆日程第1 会議録署名議員の指名

◎議長（澤史朗）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。本日の会議録署名議員は会議規則第88条の規定により、12番、野村議員、13番、籠山議員を指名いたします。

◆日程第2 会期の決定

◎議長（澤史朗）

日程第2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。本定例会の会期は、本日6月10日から6月26日までの17日間といたしたいと思っております。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、本定例会の会期は、6月10日から6月26日までの17日間と決定いたしました。

この際、諸般の報告を行います。議長活動報告及び監査委員からの例月現金出納検査の結果についての報告につきましては、それぞれお手元に配付のとおりであります。それをもって報告に代えさせていただきます。以上で、議長の報告を終わります。

続きまして、市長から発言の申し出がありますので、これを許可いたします。

（「議長」と呼ぶ声あり） ※以下、この「議長」と呼ぶ声の表記は省略する。

◎議長（澤史朗）

都竹市長。 ※以下、この議長の発言者指名の表記は省略する。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

本日、令和7年第3回飛騨市議会定例会を招集させていただきましたところ、ご参集を賜り誠にありがとうございます。6月26日までの17日間にわたりまして、重要な案件につきましてご審議を賜ります。どうぞよろしくお願いをいたします。

お手元にお配りしております行政報告の中から、3月定例会以降の市政の取組につきまして、6点のご報告を申し上げます。

最初に、3月1日、土曜日であります。茨城県東海村との初めての交流会を東海村産業・情報プラザで開催をいたしました。この交流会は同村にありますJ-PARCセンターと飛騨市のス

ーパーカミオカンデの間で15年以上にわたって行われております「T 2 K実験」をご縁に、両市村の相互理解と関係人口の拡大を図ることを目的に実施したものでございます。当日は飛騨市ファンクラブの宇宙物理学部の主催事業との位置づけもあり、県外のファンクラブ会員を含めた総勢20人が東海村を訪れ、J-PARCの研究者や東海村の観光協会の方々、村の職員の方々などと今後の相互交流や両市村の取組について様々な意見交換を行うなど、大変有意義な交流会となりました。次回は飛騨市で開催したいとお声もいただいております、今後の継続的な交流につなげてまいりたいと考えております。

次に、3月12日、水曜日ですが、肥料メーカーのサンアグロ株式会社、JAひだとの間で「飛騨市発 脱プラスチック肥料の開発・普及に向けた連携協定」を締結いたしました。水稻用の肥料では、田植え前に一度まくだけの一発型肥料が広く普及をいたしております。この肥料は数か月間にわたって効力を発揮するために、肥料の表面をプラスチックでコーティングし、成分が徐々に溶け出す仕組みとなっております。しかし、肥料を覆っていたプラスチックが分解されにくく、河川や海へ流出してマイクロプラスチックとなり、環境汚染の一因となっております。そこで、飛騨市は、プラスチックを使わない飛騨地域に適した肥料の開発と普及を目指し、三者で連携協定を締結したものでございます。全国的にも珍しい取組であると認識しております。プラスチック製の殻の代わりに微生物によって分解され、植物の養分にもなる硫黄で肥料を覆う一発型肥料での実証実験として行ってまいります。

続きまして、3月26日、水曜日に、国立大学法人富山大学において、同学と岐阜県内自治体としては初となる連携協力に関する包括協定を締結いたしました。富山大学と飛騨市は自動車で1時間半程度の距離にあり、かねてから地域医療・教育研究等の様々な分野で連携してまいりました。今回の協定は、人口減少等によって今後さらに顕著となる人材不足や地域課題への対応、さらなる教育研究等の充実を目的として締結したものでございます。協定締結式の際には、富山大学の齋藤学長からも「この協定が持続的に成果を上げ、お互いにウィン・ウィンな形で継続することを期待したい。」とのお言葉をいただいたところでございます。市といたしましても、今回の協定を機に、防災や薬草事業、文化財の保護・活用など、様々な分野でさらなる連携を図ってまいりたいと考えております。

次に、4月2日、水曜日に開催をいたしました「飛騨の匠文化館譲渡セレモニー」についてご報告申し上げます。令和7年3月31日、全国初の事例として公益財団法人日本ナショナルトラストから飛騨市へ施設が無償譲渡されたことを受け、4月2日に記念セレモニーを開催いたしました。セレモニーでは、安富正文会長から市に目録が贈呈され、譲渡後も市と連携して地域の振興に協力する旨のご挨拶をいただき、市からは同財団に対し感謝状を贈呈いたしました。飛騨の匠文化館は、昭和61年に当時明治大学助手、現在は國學院大学教授の西村幸夫先生らによって行われた観光資源保護調査の報告書「飛騨古川の町並みまちづくり」によって建設が提案され、平成元年に同財団によって建設されたものであります。今回の譲渡を機に、現在、施設の展示リニューアルの検討を進めております。この中では飛騨の匠の木工技術に加え、市民の皆さんの町を大切に思う気持ちによって、変化し続けながらも守られてきた美しい町並みの魅力を市内外に発信できるようにしたいと考えておるところでございます。

次に、児童生徒の活躍についてご報告を申し上げます。3月22日から3月26日に長野県上田市

の菅平パインピークオオマツスキー場で開催された「JOCジュニアオリンピック2025 全日本ジュニアスキー選手権大会」におきまして、神岡中学校出身で飛騨高山高校1年生（現2年生）の岡田康汰選手と、神岡中学校1年生（現2年生）の中田翔太選手が、男子アルペン競技の県代表として出場をされました。子供たちのこれまでの努力をたたえとともに、今後のさらなる活躍に期待したいと思います。

最後に、私自身の全国市長会や国関係の活動が増えておりますことから、時間をいただきまして改めてご報告を申し上げたいと思います。まず市長会関係ですが、昨年6月から務めてまいりました岐阜県市長会長、東海市長会長の任期が6月4日に終了いたしました。市長会関係の役職は、全国市長会議から翌年の同会議までが任期とされております。この間、両市長会議の運営、議事等に加え、県内各地での行事出席、さらに、充て職となっております岐阜県市町村振興協合理事長の職務などに当たってきたところでございます。

また、全国市長会においては、東海市部長として執行部会に当たる政策推進委員会に出席し、全国の都市自治体が直面する諸課題について議論に参加してまいりました。加えて、全国市長会の4つの常任委員会の1つである社会文教委員会委員長を拝命し、厚生労働省、文部科学省、こども家庭庁に関連する事項をはじめ、社会文教関連の諸課題についても対応してまいりました。具体的な活動としては、委員会の主催・運営が年5回、国に対する要望活動が4回、「こども・子育てに関する国と地方の協議の場」への出席が2回あり、このほかに個別に各省庁の幹部との面談・協議などを行ってきたところでございます。

直近では、自由民主党、公明党、日本維新の会の三党合意に盛り込まれました学校給食費無償化につきまして、5月16日、金曜日に全国市長会会長である松井一實広島市長、副会長の吉田信解埼玉県本庄市長とともに、自由民主党、公明党の政務調査会幹部に要請活動を行ってまいりました。給食費無償化については政党間で議論が進められておりますが、自治体ごとに事情が異なり、一律に無償化するということが簡単ではないことを指摘し、慎重に検討を行うとともに、最大の課題である費用について、全額国費で確実に措置を行うよう強く申入れを行ったところでございます。

次に、今期でございますが、6月4日、水曜日に開催されました第95回全国市長会議におきまして、新たに全国市長会副会長を拝命いたしました。これは東海市長会の慣例として、前期の会長が全国の副会長に就任することとなっていることによるものでございます。任期は1年です。また、社会文教委員長についても再任をされまして、2期目を務めることとなりました。副会長は全国市長会の運営方針を定めるとともに、会を代表して、総理や大臣、各党代表者、各省庁幹部等に直接お目にかかり、要望等を行うことが主な任務となっております。早速6月4日の全国市長会議において、給食費無償化への懸念や対応姿勢、高校授業料の無償化のマイナスの影響、自治体病院の経営が苦境に陥っていることなどについての議論が相次いだことを踏まえ、いずれも私の所管でありますことから、午後からの総理官邸、自由民主党、公明党への提言活動におきまして、市長会としての意見を伝えてきたところでございます。

続いて、国からの委嘱による公職ですが、3月10日に、文部科学大臣の諮問機関である中央教育審議会の第13期正委員に任命されました。任期は2年であります。これは文部科学省からの直接の推薦によるもので、飛騨市が取り組む学校作業療法や障害児や発達支援施策、飛騨市学園構

想等の知見を生かしてほしいとのお話をいただいております、これらの施策が全国レベルで評価されたものと考えております。また、同時に同審議会生涯学習分科会の委員の指名も受けております。3月17日、月曜日には、文部科学省において、初の会議に出席いたしました。中央教育審議会は、国の教育政策を決める大変重要な審議会であり、特に今期は新たな学習指導要領の策定や教師の働き方改革、業務の適正化などがテーマとなっております。いずれも大変重いテーマであり、重責ではありますが、基礎自治体の現場の実情を踏まえた意見を述べていきたいと考えております。

こうした役職をいただきますことは、私自身にとっては、その都度かなりの勉強が必要であり、市の公務に加えて時間も体力も要することから、大きな負担であることは事実でございます、副市長に代理してもらおう行事も増えておりますけれども、市政に支障が生じないように努めてまいりたいと考えております。一方で、こうした役職を通じ、最新の政策情報に触れることができるとともに、国政の中核の場において、飛騨市の実情や要望を直接伝えることができるというメリットがございます。何より、地方全体の発展が飛騨市と市民の皆様の豊かな暮らしにつながるものと考えておりますので、引き続きしっかりと勉強し、与えられた務めを果たしてまいります。

以上、行政報告とさせていただきます。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

以上で、市長の発言を終わります。

それではここで市長より、今定例会における議案の提案理由、総括説明を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

それでは、今議会に提案いたしております案件について、ご説明を申し上げます。今回は、報告案件が4件、承認案件が1件、人事案件が20件、条例の改正が6件、過疎地域持続的発展計画の変更が1件、指定金融機関の指定の変更が1件、財産の取得が3件、財産の無償譲渡が1件、損害賠償の額の決定が1件、補正予算が2件の合計40件でございます。

報告案件のうち、令和6年度飛騨市一般会計繰越明許費繰越計算書は、指定管理者制度物価スライド事業ほか29事業でございます。また、令和6年度飛騨市水道事業会計予算繰越計算書は、古川町高野配水地の更新に係る事業でございます。

次に、飛騨市土地開発公社の経営状況報告1件のほか、損害賠償の額の決定1件を合わせた合計4件でございます。

次に、過疎地域持続的発展計画の変更は、事業の追加に伴う計画変更です。

財産の無償譲渡は、統合により不要となった古川町谷区の消防器具庫を地元に譲渡し、活用いただくものであります。

損害賠償の額の決定については、職員による雪おろし作業中に落雪で車両を破損させた案件であります。

議案の中で即決議案としてお願いする案件といたしましては、飛騨市税条例の一部を改正する条例の専決処分に係る承認が1件、人事案件として、飛騨市固定資産評価委員の選任が1件、飛騨市農業委員会委員の任命が19件、財産の取得は除雪ドーザほか2件の合計24件でございます。

なお、条例の改正、補正予算につきましては後程説明させていただきますので、よろしく願

いたします。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

以上で、市長の説明を終わります。

◆日程第3 報告第1号 令和6年度飛騨市一般会計繰越明許費繰越計算書について

◎議長（澤史朗）

日程第3、報告第1号、令和6年度飛騨市一般会計繰越明許費繰越計算書についてを議題といたします。説明を求めます。

〔総務部長 岡田浩和 登壇〕

□総務部長（岡田浩和）

それでは、報告第1号についてご説明申し上げます。

別紙事業について、地方自治法第213条第1項の規定により、翌年度に繰り越して使用するの
で、同法施行令第146条第2項の規定に基づき、令和6年度飛騨市一般会計繰越明許費繰越計算書
を別紙のとおり報告する。

2ページをご覧ください。指定管理者制度物価スライド事業から3ページ最終行になりますが、
公共土木施設補助災害復旧工事までの30事業に係る繰越明許費繰越計算書につきまして、報告す
るものでございます。

番号でいきますと、17番、22番は令和6年第4回定例会に、4番から6番及び28番につきまし
ては令和7年第1回臨時会、その他につきましては令和7年第2回定例会において議決をいただ
いております。

繰り越しの理由でございますが、主に3つございます。1つ目に、指定管理者制度物価スライ
ド事業における光熱水費支援で、年度終了後の支援額を確定し、支払う必要があるもの。2つ目
に、国の交付金を活用するに当たり2か年にわたって事業を実施する必要があるもの。3つ目に、
関係機関及び地元との調整等に不測の事態を要したものになります。

なお、翌年度に繰り越す額の総額は6億9,800万円でございます。財源内訳は記載のとおりで
す。

以上で、説明を終わります。

〔総務部長 岡田浩和 着席〕

◎議長（澤史朗）

報告が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑なしと認めます。これで質疑を終結し、報告第1号を終わります。

◆日程第4 報告第2号 令和6年度飛騨市水道事業会計予算繰越計算書について

◎議長（澤史朗）

日程第4、報告第2号、令和6年度飛騨市水道事業会計予算繰越計算書についてを議題といた

します。説明を求めます。

〔総務部長 岡田浩和 登壇〕

□総務部長（岡田浩和）

それでは、報告第2号についてご説明申し上げます。

別紙事業について、地方公営企業法第26条第1項の規定により、翌年度に繰り越して使用するので、同条第3項の規定に基づき、令和6年度飛騨市水道事業会計予算繰越計算書を別紙のとおり報告する。

2ページをご覧ください。事業名は、高野配水地更新事業でございます。高野配水地の耐震基準の見直しに係る詳細設計の修正に工法の大幅な見直しが必要になったことによるものでございます。

翌年度に繰り越す額は1,317万8,000円で、財源内訳は記載のとおりでございます。

以上で、説明を終わります。

〔総務部長 岡田浩和 着席〕

◎議長（澤史朗）

報告が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありますか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑なしと認めます。これで質疑を終結し、報告第2号を終わります。

◆日程第5 報告第3号 飛騨市土地開発公社の経営状況報告について

◎議長（澤史朗）

日程第5、報告第3号、飛騨市土地開発公社の経営状況報告についてを議題といたします。説明を求めます。

〔企画部長 森田雄一郎 登壇〕

□企画部長（森田雄一郎）

報告第3号、飛騨市土地開発公社の経営状況についてご報告をいたします。

地方自治法第243条の3第2項の規定により、飛騨市土地開発公社令和6年度事業報告及び決算に関する書類並びに令和7年度事業計画及び予算に関する書類について、別紙のとおり報告をいたします。

まず、2ページ目をお開きください。令和6年度の事業報告書となります。当公社は、ご承知のとおり鮎ノ瀬団地の販売を行ってございましたけれども、令和5年度において完売となっており、令和6年度においては新規の土地の売却や取得は行っておりません。最終的な決算といたしましては、104万6,000円の純利益の計上となりました。令和6年度末の完成土地、保有高はございません。なお、当公社は固定負債を有しておらず、健全経営を確保しております。

次に、（2）理事会、（3）監査の状況ですけれども、ご覧のとおり開催をしております。

次に、3ページをご覧ください。令和6年度の決算報告書となります。明細でご説明したいと思いますので、少し飛びますけれども8ページをご覧ください。収益的収入となります。上段の1営業収益につきましては、計上はございません。下段の2営業外収益については、国債による

運用を行っておりますので利息分を計上しております。収入合計は130万805円となりました。

次に、9ページをご覧ください。収益的支出でございます。上段の1営業費用には2一般管理費として諸経費を計上しております。理事会の運営の人件費、公社運営のための人件費支出でございます。合計は25万4,520円となりました。

次に、少し戻りまして4ページをお願いいたします。損益計算書、P Lとなります。先ほど明細書にてご説明した収入と支出の差104万6,285円が、下から3行目、当期の純利益となります。なお、準備金合計は1億4,526万6,119円となります。

5ページをお願いいたします。貸借対照表、バランスシートになります。まず、資産の部ですけれども、1流動資産として（1）現金及び預金が2,578万7,866円、2固定資産が（1）投資有価証券で1億2,997万8,253円、資産合計は1億5,576万6,119円となります。次に、負債の部ですけれども、こちらはございません。次に、資本の部ですけれども、変更はなく、資本金は1,050万円です。準備金は、先ほど申し上げた金額を計上しております。負債資本合計は1億5,576万6,119円となります。

続きまして、6ページをお願いいたします。キャッシュフロー計算書になります。まず、表の左側1事業活動によるキャッシュフローは、最下段にあります104万5,480円となりました。最終的な期末におけるキャッシュの残高は2,578万7,866円です。

次に、7ページ、財産目録をお願いいたします。表の中ほどの固定資産に、令和4年度に取得いたしました国債を計上しております。その他はご覧のとおりです。

次に、13ページをお願いいたします。決算監査の意見書になります。監査の結果は適正に執行されており、経理上指摘すべき点はなかったという総括意見をいただいております。

続きまして、15ページをお願いいたします。ここからは令和7年度の事業計画及び予算についてご報告をいたします。まず、事業計画につきましては、売却すべき土地がございませんので計画はございません。次に、16ページをお願いいたします。令和7年度の予算となります。説明につきましては、少し飛んでいただいて21ページをお願いいたします。こちらの予算説明書にてご説明させていただきます。まず収入ですけれども、2営業外収益といたしまして、国債の運用益130万円を計上しております。次に、支出ですけれども、1営業費用といたしまして、2一般管理費を計上いたしました。結果、2予備費を加えまして、支出合計は39万円となります。

なお、17ページから20ページにあります予定の財務諸表につきましては、説明を省略させていただきます。

以上で、土地開発公社の経営状況報告を終わらせていただきます。

〔企画部長 森田雄一郎 着席〕

◎議長（澤史朗）

報告が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

○13番（籠山恵美子）

前のときも、もう土地購入の予定がなければ、土地開発公社はなくてもいいのではないかと、いうことを言ったと思いますけれども、改めてお聞きします。実際に、これからどういう土地開発の市としての計画があるのかも含めてですが、計画があるなら、今、説明をお願いしたいと思いますし、当面そういう計画の予定はないということであれば、土地を買うことになった

ら一般会計で買えばいいわけで、今そういう計画もないのに、常に1億5,000万円を抱えて土地開発公社がずっと継続されているということについては、こういう財政の厳しいときに無駄を省いてやっていくということから言うといかがなものかなと思うのですが、また改めて土地開発の計画があったときに公社を設立するというようなことはできないのでしょうか。土地開発の構想も含めてお願いします。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

昨年もしか同様なご質問をいただいて、答弁も同様な答弁になろうかと思えますけれども、ご説明いたしましたように、今期におきましては土地の先行取得の計画はございません。内部で議論しております土地開発公社を使用しての迅速な形での先行取得という案件も現時点ではございません。

昨年もう少し説明をさせていただいたかと思えますけれども、土地開発公社で一定の金額を保有しておき、そこで、土地を取得しなくてはいけないといったような案件が急遽浮上してきた場合は、機動的に土地開発公社によって取得することができるということでございますので、そのためにも土地開発公社を当面の間は存続をさせていただこうかなというふうに感じております。

構想は現時点ではございません。これも繰り返しになりますけれども、何らか急な取得案件が出てくるかどうかということは分かりませんが、出てきたときに即時に対応できるような形が望ましいということで存続をしているところでございます。

一旦解散をして、必要になったときにまた設置すればどうかといったようなご意見もいただきましたけれども、解散をして、これは法人登記ということの手続きになりますので、それはそれでまた準備作業が結構かかってまいります。先ほどご説明いたしましたとおり、固定負債を有しているわけではございませんし、毎年、今後特段動きがなければ営業黒字をずっと計上していくといったような会計になってまいりますので、当面は存続をさせていただきたいというふうに考えております。

○13番（籠山恵美子）

全国的に土地開発公社というものを廃止しているところもあるものですから。つまり、土地開発公社というものの必要性というのは、やはり短期に、何か急にこういう土地購入の問題があつてやるというよりも、長期的な、それこそ総合政策的な観点で、いずれこういう構想を計画にし、それからそのためには土地がこれだけ必要だということがあつて、そのために準備金を用意しておくということだと思ふのですけれども、短期的に緊急性があるなら一般会計の土地購入をすればいいわけですし、土地開発公社を中身が動かないままこうやって継続しているということについて、何て言うのでしょうか、何かほかのありようと全然違うものですから、そのあたりは今期の総合政策を見ても大きな開発事業がある様子も伺えません。そういうことでいうと、土地開発公社をこのまま無駄に1億5,000万円を温存しながら取っておくということが、本当に市民のためにいいのかなと思います、その辺りはいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

議員のおっしゃられるように、土地開発公社、清算をされる自治体も結構ございます。その背景には、これは議員もご承知かと思えますけれども、保有する土地が塩漬けになっていて、その評価額が非常に落ちてしまっているというような、要は負の遺産的な形で運営がなされてきた、その部分について清算をしてしまいたいというような状況にはあることは私どもも承知しております。しかしながら、当公社につきましては、そういった決算の状況でもございせんし、特段これを運営し続けるということが無駄だということには考えておりません。1億5,000万円程度の資産を保有しているわけですが、今後の議論の中で、そこがもう少し圧縮すべきなのではないかといったようなご意見が理事等から出てくれば、そこは圧縮をして、少し身軽な形で運営ということも想定はされるのではないかなと考えております。

○13番（籠山恵美子）

最後に確認ですが、幸いというか、この土地開発公社には塩漬けの土地はありません。幸い鮎ノ瀬団地が全部売れました。そういうことでいうと、他の自治体のように塩漬けの土地があるのでどうしても維持しなければならないのだということはないけれども、飛騨市としてはやはり維持する必要があるということで、今後もどんなに土地開発の構想がなくても、これは土地開発公社というものは維持するんだ、こういう考えですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

どうしても恒久的に維持していくという考えは当然ございません。役割がやっぱりもうないんだなといったところで、解散もしてもいいのではないかとといったところの議論が整えば、それは解散に向かっていくということでご理解いただきたいと思います。

○14番（高原邦子）

鮎ノ瀬団地を売ったりしましたね。そういったしっかりと整備していく段階で、市はちゃんとチェックも入れているし安全なのですが、万が一、いろいろな瑕疵担保責任を負うようなものが出てきたり、万が一、市が負わなければならないものが出てきた場合は、やっぱり土地開発公社があったほうがいいのかないかなというところをお伺いしたいのですが、どうですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

鮎ノ瀬団地の宅地につきましては、一応、分譲して譲渡をしておりますので、現時点で瑕疵担保責任といったところで問われるということは想定をしておりますけれども、おっしゃられるように、譲渡した公社という位置づけがありますので、もしかすると何か案件があるかもしれません。そのためにという意味合いもなきにしもあらずかもしれませんが、現時点ではそういった想定はしておりません。

○14番（高原邦子）

もう譲ったからそれでいいということなのかなと思うのですが、やっぱりしっかりとしたものを渡さないといけないとことで、何が起こるか分からないということで、私はあったほうが

かなとは思いますが、ただ、今飛騨市の中で「土地を市がもらってくれんかな。」とか、言う人が結構いらっしゃるんですね。でも、市長は、やっぱり何も予定もないものを、事業とかそういう予定のないものは寄附とかそういうもので頂けないという立場を取っているわけで、ということは、私は籠山議員の言われることも一理あるし、年に1回ですよ、これは会合をどのくらい持たれているのか。それでは質問します。この書類を出すために、年に1回ぐらいしか会合をしていないのではないですか。その辺はいかがですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

先ほど報告をさせていただきました、2ページ目に理事会の開催状況を記載をさせていただいておりますけれども、通常でありましたら年2回理事会を開催をさせていただいております。

○14番（高原邦子）

ですから、もう少し会を設けて、やっぱり予定がないものであるならば、しっかりとその辺の始末をしていく。もちろん新たに開発公社を立てるとなると、いろいろ登記とかもろもろかかるというのは分かるのですが、1つ1つしっかりと始末をしていくということも大切であると思うので、ぜひ来年のこの報告のときには、その辺の意見とか、そういったものもご報告していただきたいと思うのですが、お願いできますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□企画部長（森田雄一郎）

頂きましたご意見につきましては、理事の方々にもお伝えいたし、共有して、ご意見を求めたいと考えております。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑なしと認めます。これで質疑を終結し、報告第3号を終わります。

◆日程第6 報告第4号 損害賠償の額の決定について

◎議長（澤史朗）

日程第6、報告第4号、損害賠償の額の決定についてを議題といたします。説明を求めます。

〔教育委員会事務局長 大庭久幸 登壇〕

□教育委員会事務局長（大庭久幸）

それでは、報告第4号についてご説明申し上げます。

損害賠償の額の決定について、地方自治法第180条第1項の規定により、下記のとおり専決処分したので、同条第2項の規定によりこれを報告いたします。

発生日時、場所は、令和7年2月10日、午後2時50分頃、古川町内です。

事故の概要でございますが、古川町杉崎地内において、スクールバス運行委託業者がバス車両

を運転中、交差点で赤信号のため停車していたが、左側方向からダンプが右折してきたため車両を後退させたところ、後方確認が不十分であったため、停車していた車両に接触し、相手車両を破損させたものです。

相手方につきましては記載のとおりです。相手方損害額は28万5,715円、市の過失割合は100%。損害賠償金は28万5,715円。全て保険金で対応するものです。専決年月日は令和7年4月1日、専決第4号です。

本件につきましては、古川中学校に下校生徒を迎えに行く途中で起きた事故でございますので、生徒は乗っておりませんでした。

以上で説明を終わります。

〔教育委員会事務局長 大庭久幸 着席〕

◎議長（澤史朗）

報告が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

○13番（籠山恵美子）

これから子供を乗せるという時間で、子供たちが乗っていなかったというのが幸いだったと思います。ただ、損害額が28万円というのは、例えばバックしただけでバンパーにぶつけたぐらいではこの金額ではないわけで、どの程度の事態だったのかというのを説明いただきたいのと、やはり車のこういう損害賠償というのは大体定例会ごとにあるような気がしますけど、特にこうやって直接職員のことだったらかなりいろいろと注意も厳しくできるでしょうけれども、委託業者なんかに関するときの行政指導というのはどの程度どういう形でやっているものか、この機会にぜひ教えていただきたいと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（大庭久幸）

この30万円弱の金額の内容でございますけども、まず、バスがバックして、そのときの状態でございますけども、バス側のバンパーの破損はほとんど見受けられない状態でございました。一方で、この損害を受けた軽自動車でございますけど、一見すると何もない状態で、最近の車のバンパーはいわゆるプラスチック製で、一旦はへこむのですけど、戻るというような特性がございます。ところが、業者に修理に出したところ、バンパー同士が接触して押し込まれておりまして、中のエアコンのラジエーターとか、いわゆる冷媒とか、外からは見えないのでございますけども、中をはぐったら、やはりそちらまでの損傷がきておりまして、部品等々の取替え、工賃を含めまして、この金額になったということでございます。

それと、もう1つの業者への指導でございますけど、まず、事故の起きた状況を調査します。そこで、今後の対策として書面にて、今回の当該事故についてどうしたら防げたかというようなことを具体的に記入していただいて、そのところを全職員に、運転される方にしっかり浸透させ、なじむように徹底してくださいということをお願いして指導をしているというところでございます。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

○14番（高原邦子）

運転されていた方がどれくらいの年齢かということもまた気になるのですが、それとは別に、これは交差点の赤信号で止まっていて、停止線というものもありますよね。そこよりも前に出たのか。ちゃんとそこだったら、ダンプが上手に回って来ないということも考えられますよね。せっかくあつと思って下がったら、後方確認が不十分で事故を起こしてしまったと。ある意味、気の毒な面もあると思うのですが、停止線のこととか、そういったことは教育委員会は把握されていますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□教育委員会事務局長（大庭久幸）

まず、車両の停止位置でございますけども、当該道路の状態でございますが、2月ということで、道の裾というか幅のところには相当の除雪の雪があって、バス車両が通行するにしても気をつけなければならない状況でございました。それと、信号ですので停止線には止まっていたのですが、先ほど説明したように左側から内輪差の大きい、つまりダンプが自分の目の前を通ってくるということで、道幅が狭くなっておりますので、スムーズにダンプを行かせるためにバックをしたいという判断がそのドライバーにはあったということです。そこで、このバスにはバックアイカメラといって、バックのギアに入れるとモニターが映るのですが、その時は天候も悪くございまして、道路から跳ね上げる水しぶきでカメラのガラス面が曇っておりまして、うまく確認もできなかったし、当然サイドミラーで後ろを見るんですが、死角に入っていて車の確認ができなかったということでございます。

それと、接触はしたらしいのですが、バスは全然気づかずにそのまま運行を続けたということでありまして、事故の方はクラクションを鳴らしても、なかなかバスを止めることができなかったということで、その方は直接教育委員会の事務所のほうに来られたということで、そこで私どももバス会社に連絡をして、バスの下校の業務が終わったときに警察に行って、そういうことが発生したということで事故報告をして、保険手続きをしたということでございます。

年齢については、申し上げたほうがいいですか。（高原議員「何十代だったの。」と呼ぶ）40代でございます。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑なしと認めます。これで質疑を終結し、報告第4号を終わります。

◆日程第7 承認第3号 専決処分の承認を求めることについて（飛騨市税条例の一部を改正する条例）

◎議長（澤史朗）

日程第7、承認第3号、専決処分の承認を求めることについて（飛騨市税条例の一部を改正する条例）を議題といたします。説明を求めます。

〔総務部長 岡田浩和 登壇〕

□総務部長（岡田浩和）

承認第3号、専決処分の承認を求めることについて（飛騨市税条例の一部を改正する条例）。地方自治法第179条第1項の規定により、令和7年3月31日、別紙のとおり専決処分したので、同条第3項の規定によりこれを報告し、承認を求める。

13ページの要旨をご覧ください。提案理由につきましては、地方税法等の改正に伴う改正でございます。

次に、制定改廃の根拠等につきましては、デジタル社会基本法により、番号法の一部が改正され、令和6年6月7日に公布されました。次に、地方税法及び地方税法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律により、地方税法の一部が改正され、令和7年3月31日に公布されました。この2つの法律が令和7年4月1日に施行されたことによる専決処分となります。専決処分年月日は、令和7年3月31日でございます。なお、本条例の施行日は令和7年4月1日です。

次に、条例の概要と市民への影響について、併せて申し上げます。1つ目でございますが、法人番号関係になります。デジタル社会形成基本法により番号法の一部が改正され、項ずれが生じるものの改正です。市民への影響は特にございません。

次に、2つ目の市民税関係です。1番です。本年11月からの排気ガス規制の強化に伴い、現在の原動機付自転車の生産が終了します。いわゆる50ccの原付バイクのことです。この規制をクリアするために排気量と出力を拡大し、対応できる新基準の原動機付自転車が製造されるようになり、この原動機付自転車に係る軽自動車税種別割の全額を定めるものです。該当車両はございません。2番です。マイナ免許証の運用開始に伴い、減免申請時の運転免許証の提示義務に係る規定が、従来の免許証の提示に加えてマイナ免許証の提示が追加されたことに伴い、改めるものです。市民への影響は特にございません。

次に、3つ目の固定資産税関係です。1番ですが、長寿命化に資する大規模修繕工事を行ったマンションについて、マンション管理組合の管理者等から必要書類等の提出があり、一定の要件に該当すると認められる場合には、所有者から申請書の提出がなかった場合でも減免特例の適用ができるとする規定を新たに追加するものでございます。これについては対象となる物件はございません。2番です。福島復興再生特別措置法が改正（廃止）されたことにより、項ずれが生じるものの改正です。市民への影響は特にございません。

以上で説明を終わります。

〔総務部長 岡田浩和 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありますか。

○13番（籠山恵美子）

原付バイクが廃止になるということで、国からの法律が決まってしまったということで致し方ない面はありますけれども、市民への影響がないとは言えないですね。こんな地方では田んぼや畑に行くのに原付バイクによく乗られます。そういう方々が、これからはもう新規、更新ができなくなるということなので、その辺りは市としても単純に市民への影響なしと言うのではなくて、今後のことをいろいろと思い、おもんばかってほしいと思いますが、何か言いたいことはあ

りますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□総務部長（岡田浩和）

現在の原付バイクは11月をもって終了するわけですが、新基準のバイクを各メーカーが開発中ということです。それは排気量や出力を上げて、籠山議員がおっしゃったように、原付バイクというものは皆様にすごく需要が高いものですので、そういうバイクを今度は販売されるということになります。それに対する税額は同じ2,000円のままといいことすし、現状の50ccバイクが今の11月以降も使用できるのかというところは使用できますので、現在のバイクはそのままですし、新基準のバイクに対して今の税額を決めるということになりますので、バイクに対する何らかを取り上げてしまうというような改正ではございませんので、よろしくお願いいたします。

○14番（高原邦子）

これの施行日は4月1日ということで、専決だと思うのですが、実際、国のほうが法律が変わったと。そして、それに合わせてそれぞれの地方公共団体も条例等を改正していくという案内は、どのくらい前に来るものなのですか。いつも専決という形になるのですか。出されてくるものもありますよね。今回のものは、令和6年の法律第46号というのと令和7年のとか、いろいろこの辺が分からないし、地方税法のことも。これはいつ国のほうから来て、通ったのですかということをお教えください。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□総務部長（岡田浩和）

国のほうからは、3月31日になると思いますが、総務省のほうから技術的助言がございまして、4月1日に施行するようというように通知が来ておりますので、それに合わせて本市のほうも条例を専決処分させていただいたということになります。

○14番（高原邦子）

法務省は4月1日からのやつを3月31日ぐらいのときに、やれよと言って来るのですか、指導されるのですか。もっと前から法律とか通っていないと駄目じゃないですか。その案内はいつ頃来るのですかということを私は伺っているのですけれど。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□総務部長（岡田浩和）

先ほど申し上げましたデジタル社会基本法、こちらについては令和6年中に公布されておりますが、次の、地方税法及び地方税法等の一部を改正する法律の一部を改正する法律につきましては、令和7年の3月31日に公布されておりますが、これは衆議院のほうを採決いただいたのが3月31日だったと思いますので、その例を持ってきておりますので、それ以前に、こうですというところの通知ではなくて、同日で来ているというのが現状だと思っております。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております承認第3号につきましては、委員会付託を省略いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、承認第3号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。承認第3号は、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、承認第3号は原案のとおり承認されました。

◆日程第8 議案第88号 財産の取得について（除雪ドーザ）

◎議長（澤史朗）

日程第8、議案第88号、財産の取得について（除雪ドーザ）を議題といたします。説明を求めます。

〔基盤整備部長 横山裕和 登壇〕

□基盤整備部長（横山裕和）

議案第88号について説明いたします。財産の取得について（除雪ドーザ）。次のとおり財産を取得する。財産の種類は物品です。財産の名称及び数量は、除雪ドーザ1台です。取得の目的は、除雪ドーザの更新。取得金額は、2,024万円。取得先は、株式会社利興。取得の方法は、指名競争入札。設置場所は、神岡町地内です。応札者数は、5者。落札率は、64.33%でした。財源は、社会資本整備総合交付金、過疎対策事業債を充当いたします。

説明は以上でございます。

〔基盤整備部長 横山裕和 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第88号につきましては、委員会付託を

省略いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第88号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。議案第88号は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第88号は原案のとおり可決されました。

◆日程第9 議案第89号 財産の取得について（消防ポンプ自動車）

◎議長（澤史朗）

日程第9、議案第89号、財産の取得について（消防ポンプ自動車）を議題といたします。説明を求めます。

〔消防長 堀田丈二郎 登壇〕

□消防長（堀田丈二郎）

議案第89号、財産の取得について（消防ポンプ自動車）を説明します。

次のとおり財産を取得する。財産の種類、物品。財産の名称及び数量、消防ポンプ自動車1台。取得の目的、消防ポンプ自動車の更新。取得金額、5,687万円。取得先、丸新消防株式会社。取得の方法、一般競争入札。設置場所、神岡町地内。応札者数、2者。落札率、98.51%。財源、緊急消防援助隊設備整備費補助金、過疎対策事業債です。

〔消防長 堀田丈二郎 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

○13番（籠山恵美子）

落札率ですけれども、98.51%と高いんですけれども、これは一般競争入札ですよ。先の財産取得の、神岡町の除雪ドーザで言いますと、これは指名競争入札ですけれども、落札率64.33%という、一般競争入札で98.何%というのはどういうものなのかなと思いますけど、その辺りは消防署としては何か考えていらっしゃいますか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□消防長（堀田丈二郎）

除雪ドーザにつきましては、一般汎用品であります。一方、消防車については、独自の仕様書があり、特注品ということで、落札率の違いがあるのかと考えております。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第89号につきましては、委員会付託を省略いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第89号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。議案第89号は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第89号は原案のとおり可決されました。

◆日程第10 議案第90号 財産の取得について（スクールバス）

◎議長（澤史朗）

日程第10、議案第90号、財産の取得について（スクールバス）を議題といたします。説明を求めます。

〔教育委員会事務局長 大庭久幸 登壇〕

□教育委員会事務局長（大庭久幸）

議案第90号についてご説明申し上げます。財産の取得について（スクールバス）。次のとおり財産を取得する。財産の種類は、物品。財産の名称及び数量、スクールバス1台。取得の目的は、スクールバスの更新でございます。取得金額、2,920万5,000円。取得先は、有限会社中畑自動車です。取得の方法は、指名競争入札。設置場所は、古川町地内。応札者数は、2者です。落札率は、87.72%。財源は、へき地児童生徒援助費補助金と過疎対策事業債です。

以上で説明を終わります。

〔教育委員会事務局長 大庭久幸 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第90号につきましては、委員会付託を

省略いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第90号については委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。議案第90号は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第90号は原案のとおり可決されました。

◆日程第11 議案第56号 飛騨市固定資産評価委員の選任につき同意を求めることについて

◎議長（澤史朗）

日程第11、議案第56号、飛騨市固定資産評価委員の選任につき同意を求めることについてを議題といたします。説明を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

それでは、議案第56号につきましてご説明を申し上げます。

飛騨市固定資産評価委員を選任するため、地方税法第404条第2項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

専任者について申し上げます。提案理由は、市税務課長の人事異動に伴う改選でございます。氏名は宮垣津治美。なお、生年月日、住所は記載のとおりでございます。

よろしくお願いいたします。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより質疑を行います。質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第56号は、委員会付託を省略いたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第56号は委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。議案第56号は、原案のとおり同意することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第56号は原案のとおり同意されました。

◆日程第12 議案第57号 飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて
から

日程第30 議案第75号 飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについて

◎議長（澤史朗）

日程第12、議案第57号から、日程第30、議案第75号、飛騨市農業委員会委員の任命につき同意を求めることについての19案件を、会議規則第35条の規定により一括して議題とします。議案の朗読を省略し、説明を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

それでは議案第57号から議案第75号につきまして、一括してご説明を申し上げます。

飛騨市農業委員会委員を任命するため、農業委員会等に関する法律第8条第1項の規定により、議会の同意を求めるものでございます。

順次申し上げます。議案第57号、氏名は下方好博さん、認定農業者でございます。生年月日、住所は記載のとおりで、提案理由は任期満了に伴う任命でございます。以降、議案第75号まで生年月日、住所は記載のとおりと。また、提案理由は同様でございます。なお、略歴につきましてはそれぞれ裏面のとおりでございますので、ご参照賜ればと思います。

続いて、議案第58号、仲嶋一博さん、農業者でございます。

議案第59号、中箴誠一さん。農業委員会等に関する法律第8条第6項に規定する利害関係を有しないものでございます。

議案第60号、田口吉彦さん、農業者でございます。

議案第61号、溝上敏次さん、農業者でございます。

議案第62号、阪上敏彦さん、認定農業者である法人の役員でございます。

議案第63号、前田憲司さん、農業者でございます。

議案第64号、山口茂明さん、農業者でございます。

議案第65号、下方良治さん、農業者でございます。

議案第66号、蒲生洋子さん、認定農業者である法人の役員でございます。

議案第67号、洞眞澄さん、農業者でございます。

議案第68号、柚原昌昭さん、農業者でございます。

議案第69号、小邑智幸さん、農業者でございます。

議案第70号、森下真次さん、農業者でございます。

議案第71号、森下和正さん、認定農業者でございます。

議案第72号、洞口英夫さん、認定農業者経験者で準ずるものでございます。

議案第73号、大家耕司さん、農業者でございます。

議案第74号、上平義幸さん、認定農業者である法人の役員でございます。

議案第75号、関口好美さん、農業者でございます。

以上、19名の皆様で、任期につきましては、令和7年7月1日から3年間でございます。

以上で説明を終わります。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、これより一括質疑を行います。質疑はありませんか。

○13番（籠山恵美子）

今朝の提出ですので、お聞きします。この中で継続、留任の方と新任の方と、どのぐらいの割合ですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□農林部長（野村久徳）

手元の資料ですと、この中で今の事態で現農業委員の方が9名でございます。

失礼いたしました。会長がありますので、訂正して10名でございます。

○13番（籠山恵美子）

約半数の方が新しい方かなということですよね。農業委員の仕事というのはかなり重責のある仕事だと思っていて、今の国の農政もすごく大きく変動しているところだと思うので、農業委員会のこういう方々は就任されるときに、あるいは委託、委嘱する前後に、何か研修みたいなものはちゃんと受けられるものなのですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□農林部長（野村久徳）

研修のほうは県の農業会議、あるいは市のほうで行っております。

◎議長（澤史朗）

ほかに質疑はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております議案第57号から議案第75号までの19案件につきましては、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第57号から議案第75号までの19案件については、委員会

付託を省略することに決定いたしました。

これより一括討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより一括採決をいたします。議案第57号から議案第75号までの19案件について、原案のとおり同意することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、議案第57号から議案第75号までの19案件は、原案のとおり同意されました。

◆日程第31 議案第76号 飛騨市税条例の一部を改正する条例について
から

日程第42 議案第87号 令和7年度飛騨市水道事業会計補正予算（補正第1号）

◎議長（澤史朗）

日程第31、議案第76号、飛騨市税条例の一部を改正する条例についてから、日程第42、議案第87号、令和7年度飛騨市水道事業会計補正予算（補正第1号）については、会議規則第35条の規定により一括して議題といたします。説明を求めます。

〔市長 都竹淳也 登壇〕

△市長（都竹淳也）

それでは、私からは議案第86号及び議案第87号にて提案しております補正予算の審議をお願いするに当たりまして、その概要についてご説明申し上げます。

今回の一般会計補正予算は年度が始まって間もない段階であることから、当初予算編成後に生じた事由や国県補助事業の内示額に合わせた事業費及び財源調整が主な内容です。また、定額減税に伴う調整給付事業の不足額を給付する国の事業を盛り込んで編成いたしました。

それでは、本補正予算における主要施策の概要についてご説明申し上げます。総務費では、国の施策で令和6年度に実施いたしました定額減税調整給付金において、不足額が生じる方に対して給付する「定額減税補足給付金（不足額給付）」につきまして、全額国庫補助金を財源に1億2,900万円を計上いたしました。

また、河合森林総合利用施設「Y u ・ M e ハウス」について、交付税措置率の高い起債に「施設の集約化・複合化等に伴う除却事業」が今年度から追加されたことから、この起債を活用して解体を行うため、所要額5,500万円を計上いたしました。また、今年3月に「レールマウンテンバイク ガッタンゴー」のコース外にあります茂住トンネル付近でのり面崩壊が発生したことに伴い、安全管理の観点からコース内の擁壁点検を実施するための調査費100万円を追加計上いたしました。さらに、東北大学研究施設「K a m L A N D」の設備改修に伴う初めての内部一般公開に向けた支援として、所要額80万円を計上したほか、池ヶ原湿原における環境保全と地域資源の活用を目的として、民間事業者と連携したヨシの活用事業を新たに展開するための所要額20万円

を計上しております。

このほか市債権の一元管理に向けた体制整備として、今年度より設置した債権管理室への人材派遣を受けるための費用270万円を追加計上するとともに、防災関連では、ライフライン保全対策事業の県補助金の増額に対応するため1,250万円を、自主防災組織連絡協議会の組織化や研修等に係る経費として170万円をそれぞれ追加計上いたしました。

民生費では、多機能型障害者就労支援事業所の施設拡充に伴い、必要な整備費を支援するため補助金200万円を追加計上したほか、生活扶助基準の見直しに伴うシステム改修費170万円を計上しております。

衛生費では、神岡町にある梨ヶ根浄水場における急速ろ過池の耐震化工事につきまして、当初予定していた国庫補助金が減額されたことを受け、不足する工事費に対し水道事業会計の出資金として120万円を追加計上いたしました。また、市内での医療福祉分野への就業を目指す看護学生の修学資金貸与に係る繰出金60万円を追加計上しております。

労働費では、地域内での雇用環境の改善と人材確保に向け、空き家を社宅として有効活用する市内事業者を支援する補助金80万円を追加計上いたしました。

農林水産業費では、古川町袈裟丸地区の土地改良法に基づく手続きとして所要額250万円を追加計上したほか、玄の子地区土地改良事業の受益者負担分を支援するため補助金500万円を計上しております。また、「飛騨市森林づくり構想」の策定に当たり、専門的な知見を踏まえた計画の質の向上を図るために所要額90万円、林業技術者育成支援事業補助金の新規対象者に交付する費用として60万円をそれぞれ追加計上いたしました。

商工費では、観光イベントにおける人件費高騰に対応するための所要額100万円、市民や団体が行うまちづくり活動の支援補助金として100万円をそれぞれ追加計上いたしました。

土木費では、通学路緊急対策事業の国補助金が当初の見込みよりも大幅に採択されたことを受け1,000万円を追加計上したほか、今年度から制度化いたしました屋根雪下ろし命綱固定アンカー設置補助金が、当初の見込みよりも多くの申請が見込まれることから270万円を追加計上しております。

消防費では、岐阜県消防操法大会に飛騨市消防団古川方面隊の出場が決まったことから、所要額320万円を計上いたしました。

教育費では、岐阜県教育委員会から委託される「ふるさと魅力体験事業」について、古川中学校が昨年度に引き続き採択されたことから、県施設での体験活動や芸術鑑賞に必要な経費70万円を計上したほか、小中学校校務支援システムの更新にかかる費用として660万円、中学校に配備している小型除雪機の更新費用として130万円を計上いたしました。このほか体育施設関連では、「飛騨かわいスキー場」の圧雪車修繕に710万円、森林公園の資機材格納庫の購入に110万円をそれぞれ追加計上しております。

以上、今回の補正予算額 2 億5,080万円を追加し、補正後の予算総額は200億4,080万円となります。なお、今回の補正予算の編成に必要な財源につきましては、国県支出金や特定目的基金繰入金、市債等の特定財源のほか、財政調整基金繰入金にて調整をいたしております。水道事業会計では、先ほど衛生費でも申し上げました梨ヶ根浄水場における急速ろ過地の耐震化工事について、国庫補助金の減額に合わせて財源の調整を図るものであります。

以上で私の提案説明を終わります。条例、その他の議案につきましては総務部長より説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

〔市長 都竹淳也 着席〕

◎議長（澤史朗）

続いて説明を求めます。

〔総務部長 岡田浩和 登壇〕

□総務部長（岡田浩和）

それでは、条例、その他の議案の概要につきましてご説明申し上げます。

議案第76号、飛騨市税条例の一部を改正する条例については、地方税法の一部改正による改正で、公示送達の方法、特定親族特別控除額の創設、加熱式たばこ紙巻きたばこの税負担を見直す改正となります。

議案第77号、飛騨市ライフライン保全対策事業分担金徴収条例の一部を改正する条例については、これまでございました岐阜県ライフライン保全対策事業が、県の財源確保のため県の森林環境譲与税を充当できる清流の国ぎふ森林・環境基本事業補助金に統合されたことに伴い、引用しております要綱名を改正するものでございます。

議案第78号、飛騨市行政区等設置条例の一部を改正する条例については、神岡町の任意組織でありました東雲区が市との連絡調整と防災の観点から行政区として活動するため、地域住民の中で同意が得られたことから条例に追加するものであります。

議案第79号、飛騨市過疎地域持続的発展計画の変更については、リサイクルセンターのコンテナ車の購入と神岡小学校プール工事の2事業を計画に追加し、過疎債の対象とするためのものでございます。

議案第80号、飛騨市指定金融機関の指定の変更については、輪番制により、高山信用金庫を令和7年10月1日から令和9年9月30日までの2年間を指定金融機関として指定することに対して議決をお願いするものです。

次に、議案第81号、財産の無償譲渡について（古川町谷消防器具庫5分団1部）は、古川町5分団にある1部の谷が2部の信包に統合することにより、谷にある消防器具庫が不要になり、地元から譲渡の希望があったことから議決をお願いするものです。

議案第82号、飛騨市消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例については、非常勤特別職の公務災害補償は国家公務員の給与法の基準を参考に定められており、給与法の改正により、ベースアップが図られたことや扶養手当が見直されたことによる改正であります。

続きまして、議案第83号、飛騨市家畜診療所設置条例の一部を改正する条例については、獣医師不足で休止していた授精卵採卵業務を獣医師が確保できたことから、再開するため当該業務を条例に追加し、その料金も追加するものです。

議案第84号、飛騨市駐車場条例の一部を改正する条例については、行政財産として交換により取得した飛騨古川駅東駐車場を、広く住民が利用する公の施設とするため駐車場条例に追加するものです。

議案第85号、損害賠償の額の決定については、市職員が軒先の雪庇落とし作業をしていたところ、格納車庫周辺に駐車していた車両に落雪させ、破損させたことへの賠償について議決をお願い

いするものであります。

以上で、提出議案の説明を終わらせていただきます。

〔総務部長 岡田浩和 着席〕

◎議長（澤史朗）

以上で説明が終わりました。

ただいま説明のありました議案第76号から議案第87号までの12案件につきましては、6月18日から6月20日までの3日間、質疑を予定いたしております。質疑のある方は、発言通告書によりお願いいたします。なお、質疑・一般質問の発言通告書は6月12日、木曜日、午前10時が締切りでありますのでお願いいたします。

◆日程第43 意見第1号 刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書

◎議長（澤史朗）

日程第43、意見第1号、刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書を議題といたします。本案について説明を求めます。

〔議会運営委員長 住田清美 登壇〕

●議会運営委員長（住田清美）

意見第1号、刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書。上記事件について別紙のとおり会議規則14条の規定により提出します。

別紙の刑事訴訟法の再審規定の改正を求める意見書につきましては、要約して説明させていただきます。冤罪は国家による最大の人権侵害の1つであり、人権国家かを標榜とする我が国にとってはもちろん、住民が冤罪被害者となりうる地方自治体にとっても、冤罪の防止や冤罪被害の救済は重要な課題といえる。冤罪被害者を救済するための制度としては再審があるが、この手続きを定めた法律には再審請求手続きの審理の在り方に関する規定がほとんどなく、裁判所の広範な裁量に委ねられている。

その中でも、とりわけ再審における証拠開示の問題は重要であり、過去の多くの冤罪事件では、捜査機関の手元にある証拠が再審段階で初めて明らかになり、それが冤罪被害者を救済するための大きな原動力となっている。また、再審開始決定がなされても、検察官がこれに不服申立てを行う事例が相次いでおり、冤罪被害者の速やかな救済が妨げられている。

よって、国においては、冤罪被害者を一刻も早く救済するため、刑事訴訟法の再審規定について、これらの趣旨を踏まえた改正を速やかに行うよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。令和7年6月10日提出、飛騨市議会。
なお、提出先は記載のとおりであります。

〔議会運営委員長 住田清美 着席〕

◎議長（澤史朗）

説明が終わりましたので、質疑を行います。質疑はありますか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

質疑がないようですので、質疑を終結いたします。

お諮りいたします。ただいま議題となっております意見第1号につきましては、委員会付託を省略したいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、意見第1号については、委員会付託を省略することに決定いたしました。

これより討論を行います。討論はありませんか。

（「なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

討論なしと認め、討論を終結します。

これより採決をいたします。意見第1号は、原案のとおり決することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、意見第1号は原案のとおり可決されました。

ここでお諮りいたします。議案精読のため、6月11日から6月17日までの7日間を休会としたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

◎議長（澤史朗）

ご異議なしと認めます。よって、6月11日から6月17日までの7日間は、議案精読のため休会とすることに決しました。

◆閉会

◎議長（澤史朗）

以上をもちまして、本日の議事日程は全て終了いたしました。会議を閉じ、散会いたします。お疲れさまでした。

（ 閉会 午前11時32分 ）

地方自治法第123条第2項の規定により、ここに署名する。

飛騨市議会議長 澤 史朗

飛騨市議会議員（12番） 野村 勝憲

飛騨市議会議員（13番） 籠山 恵美子